

令和 3 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02280

研究課題名(和文) グローバル化する中国の現代思想と伝統に関する研究

研究課題名(英文) A Research on Contemporary Philosophy and Tradition in Globalizing China

研究代表者

石井 剛 (Ishii, Tsuyoshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：40409529

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本科研究費研究課題「グローバル化する中国の現代思想と伝統に関する研究」においては、中国という国家の内部におけるグローバル化ではなく、「中国」という名辞と相伴って表象される政治・経済・社会・文化・思想の諸現象、そして、中華人民共和国の国際的なプレゼンスの増大化を起因として顕著になってきた国際関係の新しい変化の双方を「中国のグローバル化」プロセスであるにとらえた。そして、地域研究や社会科学的視点によるアプローチではなく、グローバル化する中国という現象の背後にある思想・哲学を現代思想として把握しながら、伝統思想との関連において、中国思想・哲学研究に新たな分析枠組みを提供することに努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「グローバル化する中国」と称して中国文学の範囲を地域的限定を超えた研究領域に拡大したことにより、これまで地域的枠組みのなかに終始してきた中国研究を、世界の研究の現状を踏まえたより大きなスコープに収めることができた。

また、「グローバル化する中国」はこれまで、国際関係論や社会科学の諸分野において研究対象とされてくることが多かったために、中国をめぐる新しい変化とそれと同時に生起する世界の変化の趨勢に対して、どのような思想・哲学的背景が作用しているのかが関心が持たれつつ本格的な研究はなかった。本研究は伝統との関連において思想・哲学の角度から「グローバル化する中国」にアプローチした点で意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：This research project entitled "A Research on Contemporary Philosophy and Tradition in Global China" designated the current new trend emerging along with China's rapid progress to be a new global power as "China's globalization" or "globalizing China". As China's international presence has been getting larger, it is now more necessary to examine what kinds of philosophical discourses are generated to influence international politics, economics, culture and academic discourse.

The research is neither area studies or social scientific one, but is study in humanities, particularly taking philosophical and historical approach. Contemporary philosophy related to globalizing China requires profound understanding of traditional thoughts in Chinese as well. Built on such an understanding, this research paid more attention to modern reinterpretation of pre-modern Chinese philosophy to provide some new analytic framework to researches of Chinese philosophy and intellectual history.

研究分野：中国思想史・哲学

キーワード：中国 グローバル化 現代思想 伝統 中国哲学 政治哲学 礼 天下

1. 研究開始当初の背景

研究の立案当初、アメリカの一極超大国としての地位に揺らぎが見え始め、ヨーロッパにおいては多分が主義的統合の理想が曲がり角を迎えていた。それは、中国の思想家、汪暉が「脱政治化」と形容した世界同時進行的なプロセス（『世界史のなかの中国』、青土社、2011年）がひとつの結末を迎え、世界が「再政治化」することを予示している。この汪暉の研究が近現代中国思想史に対する内部の分析から出発して世界史的視座を持ち得たのと同じように、中国のモダニティを省察することが中国の世界史的意義を考察することにつながるだけでなく、同時に、現在経験しつつある新しい変化を理解するためにこそ、中国の思想や哲学に注目する必要があると考えた。具体的な事例としては、趙汀陽の「天下体系」論（『天下体系』、中国人民大学出版社、2011年）があった。それは、従来のグローバル化が疲弊しつつあるなかでアフリカ開発などにおいて大きな存在力を示し、ユーラシア大陸一体化を展望する「一帯一路」政策を打ち出していた中国が持つ世界的影響力と相呼応する思想の出現であったと言える。そこで、本研究において「グローバル化する中国」と称して、中国自体が地球全体を変えていく影響力を持ちつつあるという現実を、思想・哲学的に考察しようと試みることになった。

2. 研究の目的

本研究は、今日の世界における中国の様相を「グローバル化する中国」の登場であると認識した上で、中国における現代思想の世界史的意義を考察する。その際、グローバル化する中国では、現代思想領域で前近代的伝統思想・哲学に対する再評価がさまざまなかたちで試みられていることにとりわけ注目する。そのことによって、中国的人文知は世界化・普遍化する契機をもち得るのか、もち得るとするならばそれはどのような意味をもつのだろうか。本研究の目的は、中国思想・哲学の内部から、伝統を再び資源として変容しつつある中国現代思想のグローバルな意味を問い質すことである。

3. 研究の方法

本研究は、中国における現代思想の実際について分析的な研究を行うと共に、そこにおける伝統思想・哲学の意義や役割について考察を試みるものである。そのためには、資料収集はもとより、研究代表者・研究分担者がこれまでに培ってきた海外研究者とのネットワークを幅広く生かしつつ、国際研究交流を強化することを最も重要な研究の核に据える。とりわけ、以下に示す海外研究機関や海外研究協力者との連携が予定されている。また、中国研究分野にとどまらず、関連する思想史・哲学研究者にも協力を求めていくことも重要である。それなくしては「グローバル化する中国」の位置を適切に定めることはできないからである。

具体的には、以下に挙げる研究活動を組織的に展開した。

【研究者による個別研究】

研究代表者・研究分担者がそれぞれの役割分担にもとづいて資料収集をおこなった。その際、中国、台湾、香港、シンガポール、アメリカ、イギリス、マレーシア、オーストラリア、ドイツなど中国（中華圏）に留まることなく北半球を中心に世界の研究を対象を求めた。

【共同研究会】

研究代表者・研究分担者が相互に問題を共有し合い、その都度役割を確認するために、準定期的な研究会を年間複数回開催した。そこではそれぞれの研究者が進捗状況を報告するほか、必要に応じて国内外から関連する研究者を招いてディスカッションを行う。

【国際研究交流ワークショップ】

本研究は同時代的に進行中の思想実践に触れる中で現代思想と伝統の意味を探ることを主眼としており、そのためには未定形の思想状況を理解することが不可欠である。その意味で研究者間のコミュニケーションが本研究の中できわめて重要な役割を担った。具体的には、海外研究者との共同研究ワークショップを開催し、具体的かつ萌芽的な個別のトピックを共有できる少数の研究者が国別・地域別を問わず集まり、集中的な議論を行った。

4. 研究成果

(1) 「グローバル化する中国」の時代における中国哲学の最前線研究

2016年に出版された Michael Puett & Cristine Gross-Loh, *The Path: What Chinese Philosophers Can Teach Us about the Good Life*, New York: Simon & Schuster, 2016 (日本語版マイケル・ピュエット、クリスティーン・グロス=ロー『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』、早川書房、2016年) について、2017年10月に国際ワークショップを開催した。中国（北京大学、中国社会科学院、中山大学）、韓国（延世大学）、シンガポール（南洋理工大学）から研究者を招いて、世界同時発売されたこの中国哲学に対する新解釈を示した著作について議論し、

中国哲学の現在地とそのグローバルな意義を確認した。2017年10月には、マイケル・ピュエット（ハーヴァード大学）を招聘して、同著作をめぐる座談会を行い、とりわけピュエットが先秦儒学の中に読み込もうとする「かのようにの礼」がどのようにしてこれまでの中国哲学に対して別のディスコースを形成しうるかについて議論を行った。その成果は、現在、中国の出版社（生活・読書・新知三聯書店）によって編集中であり、COVID-19 パンデミックによる遅延を蒙りながらも2021年中に刊行される予定となっている。中国を含む東アジアの中国哲学研究者がアメリカにおける最新の中国哲学研究成果を共有し、東アジアの側からその著者との対話を推進した成果が、日本において行われたこと、そして、その成果物がまず中国にて中国語で出版されることの意義は非常に大きいと言わなければならない。

（2）現代中国におけるモダニティと伝統の相剋に関する研究

2016年にはセバスチャン・ピリュ（パリ・ディドロ大学）と干春松（北京大学）を招いて、中国における儒家復興と中国哲学の再定義に関するミニシンポジウムを行った。2017年には、「言語と政治」をめぐるワークショップ（国立政治大学（台北））、社会進化論をめぐるワークショップ（延世大学（ソウル））を行った。また、陳少明（中山大学）を招聘して清代訓詁学の近代中国哲学への影響に関する研究を行った。これら一連の研究は、中国の近代から現代への思想的発展の軌跡を、分野横断的かつ地域横断的に跡づけようとするものであると言えるが、それは総じていうならば、中国において近代以降問題化されてきた哲学的課題を、地域研究的対象としてではなく、新たなグローバルセオリーに昇華させていくための基礎研究であったと言える。Leigh Jenco, *Chinese Thought as Global Theory*, Albany: SUNY Press, 2016、はこうした関心を後押しする重要な先行研究であり、2019年には同書の講読を進めた。2020年には、朱子学の今日的意義を再検討する国際研究会（日本、中国、台湾、韓国）が研究分担者の田中有紀によって組織され、定期的にオンライン研究会が開催されるようになったほか、2021年2月にはオンライン国際シンポジウム「朱子学の過去と未来」が開催された。朱子学を今日どのように解釈するかという問題は、上記（1）における、マイケル・ピュエットが首唱する「礼」の再興としての新たな中国哲学構想との緊張関係において重要な意味を持っている。

（3）中国的世界観の再構成に関する研究

2016年には、『宅茲中国』（2021年には日本語版『中国は「中国」なのか』として東方書店から出版）などのいわゆる「中国三部作」を陸続と発表して、主権国家を名指す地理上の名称であるだけではない、歴史的に形成された複雑な概念としての「中国」の歴史学的研究で知られる葛兆光（復旦大学）を招聘した。それに先立って、「中国」という概念そのものがいかに問題化されるのかについて共同研究会において議論を重ねた。その中で、「中国」概念の歴史学的研究は趙汀陽（中国社会科学院）が提出した「天下システム」論に対する思想的応答であることが確認され、2017年には、趙汀陽の新著である『天地的当代性：世界秩序の時間与想像』（中信出版社、2016年）の講読を進め、かつ、「天下システム」論に対するアメリカからの応答の代表例としてStephen Angle, *Contemporary Confucian Political Philosophy: Toward Progressive Confucianism*, Cambridge: Polity Press, 2012、の講読を行った。「天下」概念をめぐるのは、国際的に哲学的課題として注目を集めるようになっており、2018年からは趙汀陽が首唱者の一人となって、「天下ワークショップ」がシリーズ化されて中国国内で開催されている。2018年6月には、研究代表者の石井剛がその第1回に招待され、研究発表並びに討論が行われた。その成果は中国国内において出版される予定である（近日刊行予定）。また、第2回には研究分担者の中島隆博が招待されていたが、諸般の事情で開催が延期され、2021年5月にオンライン開催されている。

（4）「五四運動」百年を問う

2019年は、五四運動から百年にあたり、世界各地で記念活動が行われた。中国内部における諸方面での変化のみならず、「グローバル化する中国」という背景のもとで、いわゆる「五四ナラティブ」自体も多様なスペクトラムを形成し、中国史における特殊な事象としてそれをとらえるのみならず、グローバル・ヒストリーの一部としてそれをとらえようとする気運が高まり、百年記念活動においては、特にこの点が焦点化された。同時に、この流れは、世界文学のような潮流と共起的に発生しており、「文学」概念の再構築を伴いながら、世界文学的視座からの五四精神再検討の試みも多くなされた。研究代表者の石井剛は、ハーヴァード大学で開催された五四運動百周年記念シンポジウムに参加し、マイケル・ピュエットの「かのようにの礼」（上述）との関連において、五四運動における「礼」の再解釈が有した意義について発表を行った。これは、シンポジウムとタイアップとして企画された『五四@100 文化・思想・歴史』（台北：聯経出版社、2019年、上海：上海文芸出版社、2019年）にも別の論文として収録された。日本国内においては、研究分担者の森川裕貴が東洋文庫にて行われた百周年記念シンポジウム 2019年11月において研究発表を行った。

（5）世界哲学としての中国哲学研究

研究分担者の中島隆博は、「世界哲学」を提唱し、本研究課題においても2019年より本格的に「世界哲学としての中国哲学」研究に着手した。「世界哲学」は、中島の他、納富信留、山内志朗、伊藤邦武らの哲学者が共同で構想する新たな哲学ディスコースの試みであるが、国外にも類似の動きはある。本研究課題においてはそれにも積極的なコミットを求め、2019年5月には武漢大学で行われた「世界歴史と世界哲学」シンポジウムにおいて、研究代表者の石井剛が講演を行った。これは、ヤスパースの『歴史の起原と目標』の中国語新訳出版に合わせたシンポジウム

であったが、ヤスパースのいわゆる「軸の時代」をめぐる哲学史的議論の今日的意義について広範な討論が繰り広げられた。そして、その主題は日本国内における研究活動にも継続され、2019年7月には、シンポジウム「世界哲学としての中国哲学」が本研究課題による共催のかたちで、中国社会科学学会大会シンポジウムのテーマに取り上げられた。さらに、2019年から2020年にかけて、中島隆博が編集を務める『世界哲学史』全8巻（ほかに別巻）が筑摩書房より順次刊行され、中島のほか、研究代表者の石井剛と研究分担者の志野好伸がそれぞれ第6巻（中国における感情の哲学）と第3巻（仏教、道教、儒教）を分担執筆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 78-3
2. 論文標題 蒋介石『中国之命運』の国際的反響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 124-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中有紀	4. 巻 2
2. 論文標題 《孟子》今案思想在理学中的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 孟子研究	6. 最初と最後の頁 326-342
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 73-6
2. 論文標題 書評 李曉東著 国際書院 『現代中国の省察 「百姓(ひやくせい)」社会の視点から』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Nakajima	4. 巻 189
2. 論文標題 Constitutionalism and Sovereignty: On Constitutional Problems in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Telos	6. 最初と最後の頁 156-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井剛	4. 巻 13
2. 論文標題 近五十年以来日本学術界的戴震研究綜述	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較哲学と比較文化論叢	6. 最初と最後の頁 3-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井剛	4. 巻 283
2. 論文標題 反思日本現代“中国認識”与歴史的“内在理解”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 開放時代	6. 最初と最後の頁 138-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 46
2. 論文標題 五四時期中国における大同思想の興起とその意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西学院史学	6. 最初と最後の頁 63 - 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 29
2. 論文標題 存在搭橋：曾天從與洪耀勳的真理觀	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臺灣東亞文明研究學刊	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 14
2. 論文標題 西村茂樹『小学修身訓』における道德観：西洋と中国のはざま	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 1
2. 論文標題 中江兆民の唯物哲学とギユイヨール：十九世紀末日本におけるフランス哲学受容の一側面	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 17
2. 論文標題 江瀚『宗孔編』における儒教と国民国家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語・文化・社会	6. 最初と最後の頁 63 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井剛	4. 巻 152
2. 論文標題 文学復古与“科学”革命：戴震的西学对章太炎国故文体的影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代哲学	6. 最初と最後の頁 116-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 526
2. 論文標題 常建詩における垂直性と水平性をめぐる表現について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 明治大学教養論集	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 135
2. 論文標題 本当の中国? ピエール・バシェ『引きつった魂』を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文芸研究	6. 最初と最後の頁 185-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 33
2. 論文標題 中國式普世與話語權	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 67 - 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 152
2. 論文標題 啓蒙与宗教: 胡適与福澤諭吉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代哲学	6. 最初と最後の頁 124-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 32
2. 論文標題 マイケル・ピュエット 中国哲学の現在地	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 86 - 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 34
2. 論文標題 白永瑞訪談録	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 249 - 286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井剛	4. 巻 35
2. 論文標題 清代学術の「文献学転回」と世界哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 30-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井剛	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 華語語系哲学作為世界哲学：方法論雜議	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ERUDITE: Journal of Chinese Studies and Education	6. 最初と最後の頁 12-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Takahiro	4. 巻 6
2. 論文標題 Confucian Modernity in Japan: Religion and the State	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Japanese Philosophy	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 105
2. 論文標題 世界哲学としての中国哲学・日本哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論叢	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 臨時増刊
2. 論文標題 神に先立つ道：鈴木大拙と『老子』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 74-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 1161
2. 論文標題 『老子』読解の近代	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 8-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 2
2. 論文標題 道：仁斎と徂徠の間	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Shino	4. 巻 2
2. 論文標題 La voie: entre Jnsai et Sorai	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 35
2. 論文標題 論理学者にとっての中国哲学：金岳霖、沈有鼎を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Shino	4. 巻 120
2. 論文標題 Is Han Scholarship Science?: The Contrapositioning of Han Scholarship and Sung Scholarship in Modern China	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 91-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野泰教	4. 巻 19
2. 論文標題 郭高燾の『周礼』「九両」解釈について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語 文化 社会	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 74(10)
2. 論文標題 「五四新文化運動」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中有紀	4. 巻 79(1)
2. 論文標題 聖人はすべてを豫見できるか：江永の天文学における八線表(三角關數表)と西學中源説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 75-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件(うち招待講演 28件/うち国際学会 56件)

1. 発表者名 Tsuyoshi Ishii
2. 発表標題 What did they protest against?: On the possibility of reinterpreting “li 禮” in the May Fourth discourse
3. 学会等名 May Fourth @100: China and the World: an international symposium to celebrate and reflect upon the monumental legacy of China's May Fourth movement (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 從「臨界狀況」的体認出發的希望：雅斯貝爾斯的世界史觀与日本20世紀的思想經驗
3. 学会等名 「世界歴史与世界哲学：比較哲学的時代与方向」シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 世界文献学から見た清代哲学の「言語論的展開」
3. 学会等名 中国社会文化学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 「五四新文化運動」再考
3. 学会等名 五四運動百年記念シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 伝統音楽とは何か 朱熹の古楽論と琴学
3. 学会等名 琴学及びアジア伝統音楽 論文発表会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 Interpretations on Mencius in the 1930s: I. A. Richards, Fung Yu-lan, and Abe Yoshishige
3. 学会等名 東亜視野下の邏輯 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 漢学は科学か? 近代中国における漢学と宋学の対立軸について
3. 学会等名 第64回国際東方学会議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 論理学者にとっての中国哲学 金岳霖、沈有鼎を中心に
3. 学会等名 中国社会文化学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 光自何处来: 西光万吉的政治思想
3. 学会等名 第六回中日哲学フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshinobu Shino
2. 発表標題 La Voie : entre Jinsai et Sorai
3. 学会等名 Colloque : Les concepts de la philosophie japonaise (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshinobu Shino
2. 発表標題 Lin Maosheng's Philosophy of Education and its Background
3. 学会等名 International Society of East Asian Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 フランスシノロジーが読む孟子
3. 学会等名 シンポジウム「21世紀における『孟子』像の新展開」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 世界哲学としての中国哲学
3. 学会等名 第六回中日哲学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 今日における人間の再定義とは
3. 学会等名 東京カレッジ「人間とは何か? デジタル革命・ゲノム革命と人類社会を考える」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 世界哲学としての中国哲学・日本哲学
3. 学会等名 二松学舎大学人文学会第120回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 回応関凱教授「天下觀之於当代中国的民族政治」
3. 学会等名 「甚麼是天下?」工作坊(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 From Philology to Philosophy: Toward a New Narrative of the Intellectual History of the Qing Dynasty
3. 学会等名 the Harvard-Yenching Institute 90th Anniversary Alumni Conference(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 進化与宗教：梁啓超、内村鑑三对本杰明・頡德的不同閱讀
3. 学会等名 第5届國際學術研討会「19世紀末20世紀初東北亞知識的重構：以社会進化論与大同主義為中心」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 「土の近代」と「水の近代」：中国近代化の歩みから考える
3. 学会等名 愛知大学國際問題研究所創立70周年記念國際シンポジウム「グローバルな思考とローカルな思考：個性とのバランスを考える」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 「東京学派」と中国「近代」哲学
3. 学会等名 「東京学派」研究第2回ワークショップ（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 サイノフォン・スタディーズと中国哲学
3. 学会等名 シンポジウム「世界哲学としての東アジア思想」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 Critiquing Historiography: On the Im/possibility of “Immanent Understanding” of History
3. 学会等名 2019 ‘Winter’ Institute in Australian National University “History, Culture and Contested Memories: Global and Local Perspectives” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 “華語語系哲学” 以及其通向“世界哲学”的可能性雜議
3. 学会等名 北京大学-東京大学東亞研究聯合項目啓動學術會議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 第一次世界大戰終結後中国的國際協調論及其影響範圍
3. 学会等名 文化的政治・政治的文化：五四知識分子的轉變國際學術研討会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 五四時期中国的大同思想之興起及走向
3. 学会等名 第5屆國際學術研討会「19世紀末20世紀初東北亞知識的重構：以社会進化論与大同主義為中心」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 中国近現代における「国際主義」の展開：周コウ生を中心とした分析
3. 学会等名 広島史学研究会東洋史部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 対蒋介石『中国之命運』の各種反応：以英美為中心の考察
3. 学会等名 知識遷移与近代東亞的政治転型国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 作為語言的思想
3. 学会等名 語言、想像力、政治：東方民族思維與實踐中的語言觀工作坊（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 思想與語言の縫隙：反思戴震“主觀橫溢”の科學方法
3. 学会等名 語言、想像力、政治：東方民族思維與實踐中的語言觀工作坊（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 思想としての言語：翻訳について
3. 学会等名 京都大学 日本哲学史フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Dream of Association: Rethinking of Miki Kiyoshi
3. 学会等名 International Conference “Reconsidering the Universal and the Particular in East Asia”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Open Philosophy
3. 学会等名 韓国成均館大学 「東アジアを解き放つ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 The Restoration of Traditional Instruments Appearing in Xiong Penglai's Sepu
3. 学会等名 Designing Voices and Letters: The Mongols as an Empire of Communication（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 『孟子』今楽思想在理学中的展開
3. 学会等名 第二屆國際青年儒学論壇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 江永的礼学与科学
3. 学会等名 礼学与中国伝統文化國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 修養之于藝術家是否必要？新儒家徐復觀的藝術論和中国古代的音樂論
3. 学会等名 宋明理学与普遍性國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 以没有主語的語言來建構哲學：張東ソン、西順藏與時枝誠記的語言觀和政治觀
3. 学会等名 語言、想像力、政治：東方民族思維與實踐中的語言觀工作坊（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 東亞地域の初期現象學接受史：經過日本到中國、臺灣
3. 学会等名 歐洲哲學在東亞的發展：「探索台灣哲學」研討會（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 中江兆民の哲学与宗教：十九世紀末日本接受法国哲学の状況
3. 学会等名 当代法国哲学中的倫理与宗教：跨文化的視角（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 晚清の語言与政治秩序：關於言官の討論
3. 学会等名 語言、想像力、政治：東方民族思維與實踐中的語言觀工作坊（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 晚清清外交官の西方觀与大同思想
3. 学会等名 第5屆國際學術研討会「19世紀末20世紀初東北亞知識的重構：以社会進化論与大同主義為中心」（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 Philosophizing the Concept “Wen (文)” : Beginning from Takeda Taijun 's Shiba Sen
3. 学会等名 清華大学-東京大学 戦略的パートナーシップ 文系シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 礼的革命 / 革命的礼 : 通向中国現代思想史的別様視角
3. 学会等名 国際ワークショップ「東西文明の交錯と中国哲学 : 『The Path』をめぐるマイケル・ピュエット教授との対話」 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 Kanzo Uchimura and His Project of Christian Modernization Challenging Confucian Moral: Under the Yoke of the Meiji Nation
3. 学会等名 World Consortium for Research in Confucian Cultures (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 Imagining the Community of “Wen” : Humanities from East Asian Discourse
3. 学会等名 PKU-ANU-UTokyo Winter Institute 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 Liu Shipei's "lunli"(ethics) and Watsuji Tetsuro's "rinri"(ethics)
3. 学会等名 International Conference on Globalizing Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 異邦の家に住まうレヴィナス 日本語と中国語でレヴィナスを読む」、「東アジアにおけるレヴィナス
3. 学会等名 明治大学人文科学研究所総合研究「現象学の異境的展開」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 存在搭橋: 曾天從與洪耀勳的真理觀
3. 学会等名 台灣哲學與日本哲學工作坊: 洪耀勳哲學的探索 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 「彷彿」的世界: 通過森鷗外的小説『彷彿』解讀普鳴的『道』
3. 学会等名 国際ワークショップ「東西文明の交錯と中国哲学: 『The Path』をめぐるマイケル・ピュエット教授との対話」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 L' action d' écrire et le corps : Lecture de "Comment écrire" de Lu Xun
3. 学会等名 Colloque international, "Le corps dans les littératures d' Asie aux XXe et XXIe siècles : discours, représentation et intermedialité" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 植民地時期台湾出身哲学者洪耀勳と京都学派
3. 学会等名 日本哲学史フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 直観と直覚 西田幾多郎と牟宗三
3. 学会等名 シンポジウム「哲学はどこへ 現象学の展開」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Different Forms of Modern Enlightenment in East Asia
3. 学会等名 "Savoirs, institutions, économies. Histoires connectées et dynamiques globales" du projet Global History Collaborative (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Confucianism in Modern Japan
3. 学会等名 "Histoire du Japon moderne et contemporain : permanences et ruptures" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Heavenly Universality or Earthly Universality?
3. 学会等名 Conference du Centre Chine (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 地上的普遍性和亜洲的靈性
3. 学会等名 第七届“ 亜洲宗教、芸術与歴史研究 ” 復旦大学夏季研修班 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 邁克爾・普鳴：中国哲学当下的位置
3. 学会等名 国際ワークショップ「東西文明の交錯と中国哲学：『The Path』をめぐるマイケル・ピュエット教授との対話」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Confucian Modernity in Japan: Religion and the State
3. 学会等名 World Consortium for Research in Confucian Cultures (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Civil Society in the Post-Secular Age
3. 学会等名 International Conference "Rethinking Universalism and Global Citizenship from East Asia" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 古代中国と近世日本における「古代」の表象 - 『荀子』を読む
3. 学会等名 プリンストン・復旦・東大三校会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Constitutionalism and Sovereignty: On Japanese Constitutional Problems
3. 学会等名 The Telos-Paul Piccone Institute conference on Constitutional Theory as Cultural Problem (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 Civil Society and Spirituality in the Post-secular Age
3. 学会等名 Symposium “Secular Religiosity and Religious Secularity: Rethinking the Asian Agency in the Shaping of Modernity” (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野泰教
2. 発表標題 【書評】：李金強・趙立彬・谷小水『從帝制到共和：中華民國的創立』（第1卷）潘光哲・歐陽哲生・張太原・簡明海『文化、觀念与社会思潮』（第2卷）
3. 学会等名 日本現代中国学会 関東部会定例研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 第1次世界大戦後の中国における国際協調論とその射程
3. 学会等名 日本現代中国学会全国学術大会企画分科会（政治思想）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 The Path—書在当今日本の定位
3. 学会等名 国際ワークショップ「東西文明の交錯と中国哲学：『The Path』をめぐるマイケル・ピュエット教授との対話」（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 現代“科学”觀念の復古創新：兼及章太炎医論的一些啓示
3. 学会等名 「歴史、社会与文学批評：中国現当代文学研究的方法及其射程」華東師範大学-東京大学會議（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 中国“情感”哲學的興起以及“礼”的現代詮釈
3. 学会等名 2020成功人文講座：東亞儒學現代化轉型（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井剛
2. 発表標題 感情、共感、政治：中国近代哲學からのアプローチ
3. 学会等名 「東アジアにおける哲學の生成と發展：間文化の視点から」第3回共同研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 フランスにおける『老子』受容
3. 学会等名 日仏東洋学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 西田幾多郎の「物」をめぐる思想：源了圓論文を承けて
3. 学会等名 「東アジアにおける哲学の生成と発展：間文化の視点から」第6回共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 朱熹与書院：朱門弟子の學術活動
3. 学会等名 學術工作坊”書院作為哲学”（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 從理学向考拋學的轉變？：江永的律呂學与周礼學
3. 学会等名 國際學術研討會「朱子學的過去与未來」（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中有紀
2. 発表標題 中国における古琴文化と和
3. 学会等名 EAAシンポジウム「東アジア音楽思想における和」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計34件

1. 著者名 王德威、宋明wei	4. 発行年 2019年
2. 出版社 聯經出版事業股份有限公司	5. 総ページ数 335
3. 書名 五四@100：文化、思想、歴史	

1. 著者名 中島 隆博、石井 剛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 216
3. 書名 ことばを紡ぐための哲学	

1. 著者名 井上さゆり・金子亜美・小倉志穂・神野知恵・田中有紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 88
3. 書名 音楽を研究する愉しみ	

1. 著者名 伊藤 邦武	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 世界哲学史 3	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 1	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 世界哲学史 2	

1. 著者名 山下 範久	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 458
3. 書名 教養としての 世界史の学び方	

1. 著者名 Peter D. Hershock & Roger T. Ames	4. 発行年 2019年
2. 出版社 University of Hawaii Press	5. 総ページ数 344
3. 書名 Philosophies of Place: An Intercultural Conversation	

1. 著者名 堀内 勉、小泉英明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 404
3. 書名 資本主義はどこに向かうのか	

1. 著者名 東大EMP、中島 隆博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大エグゼクティブ・マネジメント 世界の語り方 1	

1. 著者名 東大EMP、中島 隆博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大エグゼクティブ・マネジメント 世界の語り方 2	

1. 著者名 小林 康夫、中島 隆博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 424
3. 書名 日本を解き放つ	

1. 著者名 田中 有紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 500
3. 書名 中国の音楽思想	

1. 著者名 池田喬、垣内景子、合田正人、志野好伸、坂本邦暢	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治大学出版会	5. 総ページ数 208
3. 書名 いま、哲学がはじまる。：明大文学部からの挑戦	

1. 著者名 鄧敦民、洪子偉、志野好伸、ほか16名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 國立臺灣大學出版中心	5. 総ページ数 552
3. 書名 啓蒙與反叛：臺灣哲學的百年浪潮	

1. 著者名 小野 泰教	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 清末中国の士大夫像の形成	

1. 著者名 中島隆博	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 思想としての言語	

1. 著者名 ロジャー・エイムズ、賈晋華（編）、石井剛（共著者）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 上海人民出版社	5. 総ページ数 369
3. 書名 李沢厚与儒学哲学	

1. 著者名 東京大学教養学部、石井剛（共著者）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270
3. 書名 分断された時代を生きる	

1. 著者名 代田智明（監修）、谷垣真理子、伊藤徳也、岩月純一（編）、石井剛（共著者）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 448
3. 書名 戦後日本の中国研究と中国認識	

1. 著者名 趙景達（編）、小野泰教（共著者）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 332
3. 書名 儒教的政治思想・文化と東アジアの近代	

1. 著者名 日本孫文研究会（編）、森川裕貴（共著者）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 孫文とアジア太平洋	5. 総ページ数 398
3. 書名 汲古書院	

1. 著者名 愛知大学国際問題研究所	4. 発行年 2020年
2. 出版社 あるむ	5. 総ページ数 312
3. 書名 グローバルな視野とローカルの思考	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 世界哲学史 6	

1. 著者名 東京大学教養学部	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 202
3. 書名 異なる声に耳を澄ませる	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 世界哲学史 5	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 世界哲学史 4	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 世界哲学史 7	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 8	

1. 著者名 マルクス・ガブリエル、中島 隆博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 256
3. 書名 全体主義の克服	

1. 著者名 中島 隆博、吉見 俊哉、佐藤 麻貴、湯島神田上野社寺会堂研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化	

1. 著者名 伊藤 邦武、山内 志朗、中島 隆博、納富 信留	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 世界哲学史 別巻	

1. 著者名 川原秀城	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 漢学とは何か	

1. 著者名 池田喬、合田正人、志野好伸、美濃部仁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 416
3. 書名 何処から何処へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>世界哲学史 http://www.chikumashobo.co.jp/special/world_philosophy/ 中国社会文化学会2019年度大会 http://www.l.u-tokyo.ac.jp/ASCSC/2019program.pdf 東京カレッジ・シンポジウム「人間とは何か？」デジタル革命・ゲノム革命と人類社会を考える https://www.tc.u-tokyo.ac.jp/ai1ec_event/28/ International Society of East Asian Philosophy http://iseap.wp.xdomain.jp/wp-content/uploads/2019/12/ISEAP2019_program_abstracts_v10.pdf</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田中 有紀 (Tanaka Yuki) (10632680)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 隆博 (Nakajima Takahiro) (20237267)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	志野 好伸 (Shino Yoshinobu) (50345237)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	小野 泰教 (Ono Yasunori) (50610953)	学習院大学・付置研究所・准教授 (32606)	
研究分担者	森川 裕貴 (Morikawa Hiroki) (50727120)	関西学院大学・文学部・准教授 (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 「言語、想像力、政治：東洋の民族的思考と実践における言語」ワークショップ	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第5回国際シンポジウム「19世紀末から20世紀はじめの東北アジアにおける知の再構成：社会進化論と大同主義を中心に」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 「中国哲学の新しい地平を語る」座談会	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 「朱子学と普遍性」国際学術シンポジウム	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際ワークショップ「東西文明の交錯と中国哲学：『The Path』をめぐるマイケル・ピュエット教授との対話	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 日中韓オンライン朱子学読書会	開催年 2020年～2021年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	ハーヴァード大学			